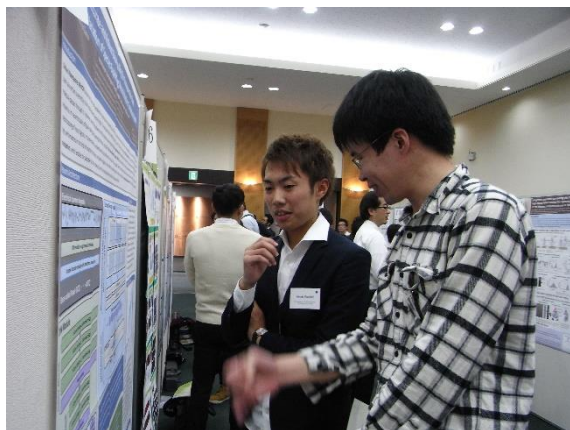


### 第13回生命医科学研究所ネットワーク国際シンポジウム

2018年10月18日（木）～19日（金）に、九州大学生体防御医学研究所主催で、九州大学医学部 百年講堂にて、第13回シンポジウムが開催されました。医科学研究所からは、2名の教員および2名の大学院学生が参加し、研究成果を発表しました。

今年のシンポジウムのテーマは、「Biomedical sciences in Era of Big Data」でした。

来年は、大阪大学微生物病研究所が主催予定です。



## 第12回生命医科学研究所ネットワーク国際シンポジウム参加

2017年11月28日、29日の2日間、医科学研究所にて「第12回研究所ネットワーク国際シンポジウム ~医科学の新発見がもたらす医療のパラダイムシフト~」が開催されました。このシンポジウムは、2004年に国立大学の法人化に伴い、附置研究所の取り組み及び研究成果を明確に社会へ発信し、より一層社会への貢献に資することを目的として、11(組織再編のため現在は10)の生命系附置研究所\*が連合する新しい試みの国際シンポジウムとして始まりました。本シンポジウムは、これまで各々の研究所単独ではなし得なかった新たな学問領域の創造、大規模な産学官連携及び人材養成を可能にする有機的な附置研究間ネットワークを形成する礎となるもので、毎年1回開催されています。今年度は、第1回の会合以来、医科学研究所が開催担当となりました。シンポジウムでは、免疫学の権威であるフランス・パスツール研究所のJames Di Santo教授に特別講演をして頂くとともに、北海道から九州に至る全国の研究所から参加した70名以上の研究者・大学院生が、英語による講演やポスター発表を行いました。講演は、変性疾患、がんの増殖、炎症と免疫、加齢とがん、分子機構と技術の5つのセッションからなり、モデル生物を用いた基礎医学研究から、疾患に対する新たな診断・治療・予防法の開発を目指した応用研究まで、多彩かつ先端的な研究の成果が多数発表されました。また、ポスターセッションでは、炎症、感染と免疫、分子機構と技術、増殖と幹細胞、ゲノム医科学、変性疾患・幹細胞、がん、その他の8つのカテゴリーに分かれて、大学院学生やポスドク等の若手研究者が中心となって発表を行い、その中からベストポスター賞6名を選出しました。講演、ポスター会場とも活発な質疑応答があり、参加者は200名を超える盛況となりました。今回新たに熊本大学発生医学研究所、群馬大学生体調節研究所の2研究所がネットワークに参加することも決まり、共同研究・共同利用拠点の生命科学系研究所のネットワークとしての活動もいよいよ活発になることが期待されます。

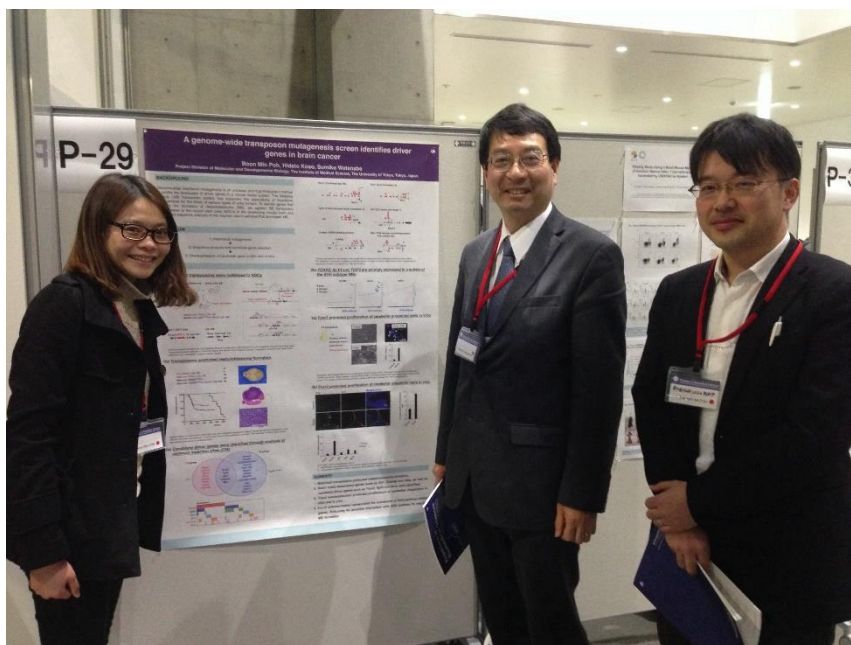


### 第 11 回生命医科学研究所ネットワーク国際シンポジウム参加

2017年1月26日（木）～27日（金）に、徳島大学先端酵素学研究所主催で、徳島大学蔵本キャンパス藤井節郎記念医科学センターにて、第11回シンポジウムが開催されました。医科学研究所からは、3名の教員および1名の大学院学生が参加し、研究成果を発表しました。今年のシンポジウムのテーマは、「Frontiers in Biomedical Sciences」でした。来年は、医科研が主催予定です。

医科研・若手口頭発表者の修士課程2年生 Boon Min POH さんが Best Poster Award を受賞されました。

発表タイトル：A genome-wide transposon mutagenesis screen identifies driver genes in brain cancer



## 第10回生命医科学研究所ネットワーク国際シンポジウム

2015年7月23日(木)~24日(金)に、北海道大学遺伝子病制御研究所主催で、北海道大学医学部 学友会館「フラテ」にて、第10回シンポジウムが開催されました。医科学研究所からは、若手教員を含む4名が参加し、研究成果を発表しました。

今年のシンポジウムのテーマは、「Towards the Next Generation Research for Cancer and Immunology」でした。



医科研・若手口頭発表者の倉島洋介助教が Young Investigator Award を受賞されました。

発表タイトル：Tissue-Specific Mast Cell-Fibroblast Network for Tissue Homeostasis

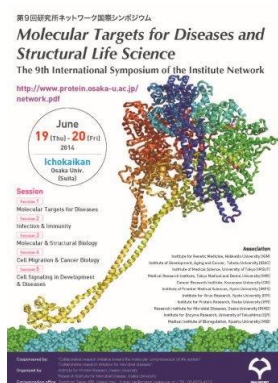
来年は、徳島大学先端酵素学研究所が主催予定です。

~~~~~

## 第9回生命医科学研究所ネットワーク国際シンポジウム参加

2014年6月19日(木)~20日(金)に、大阪大学蛋白質研究所所主催で、大阪大学 銀杏会館にて、第9回シンポジウムが開催されました。医科学研究所からは、3名の教員および若手研究者、大学院学生それぞれ1名が参加し、研究成果を発表しました。

今年のシンポジウムのテーマは、「Molecular Targets for Diseases and Structural Life Science」でした。



来年は、北海道大学遺伝子病制御研究所が主催予定です。

~~~~~

### 第8回生命医科学研究所ネットワーク国際シンポジウム参加

2013年6月27日(木)~28日(金)に、京都大学再生医科学研究所主催で、京都大学 芝蘭会館にて、第8回シンポジウムが開催されました。医科学研究所からは、2名の教員、2名の若手研究者及び大学院学生1名が参加し、研究成果を発表しました。今年のシンポジウムのテーマは、「Frontier in Medical Science and Engineering for Regenerative Medicine」でした。



来年は、大阪大学蛋白質研究所所が主催予定です。

~~~~~

### 第7回生命医科学研究所ネットワーク国際シンポジウム参加

2012年6月14日(木)~15日(金)に、東北大学加齢医学研究所主催で、東北大学 スマート・エイジング国際共同研究センターにて、第7回シンポジウムが開催されました。医科学研究所からは、2名の教員および2名の大学院学生が参加し、研究成果を発表しました。今年のシンポジウムのテーマは、「Research Frontiers for Smart Aging」でした。今回は、国内の研究所のほか、米国からは Harvard Univ., Massachusetts General Hospital, National Heart, Lung, and Blood Institute, NIH, また英国の Univ. of Dundee の研究者にも参加していただき、ご講演をいただきました。



来年は、京都大学再生医科学研究所が主催予定です。



~~~~~

### 第6回生命医科学研究所ネットワーク国際シンポジウム参加

2011年6月9日(木)~10日(金)に、東京医科歯科大学難治疾患研究所主催で、東京医科歯科大学 MD タワー2階 大講堂にて、第6回シンポジウムが開催されました。医科学研究所からは、2名の教員および2名の大学院学生、1名の若手研究者が参加し、研究成果を発表しました。

今年のシンポジウムのテーマは、「Research Breakthroughs in Intractable Diseases」でした。



医科研・若手口頭発表者の川口寧准教授が Young Investigator Award を受賞されました。

発表タイトル：Non-muscle myosin IIA is a functional entry receptor for herpes simplex virus 1

来年は、東北大学加齢医学研究所が主催予定です。

~~~~~

### 第5回生命医科学研究所ネットワーク国際シンポジウム参加

2010年6月24日(木)~25日(金)に、金沢大学がん進展制御研究所主催で、KKR ホテル金沢にて、第5回シンポジウムが、「the International Symposium Commemorating Inauguration of Kanazawa University Cancer Research Institute」との共催で開催されました。医科学研究所からは、2名の教員および3名の大学院学生が参加し、研究成果を発表しました。

今年のシンポジウムのテーマは、「Molecular and Cellular Targets for Cancer, Infectious Diseases and Regeneration」でした。



来年は、東京医科歯科大学難治疾患研究所が主催予定です。

#### 第4回生命医科学研究所ネットワーク国際シンポジウム参加

2009年1月31日(土)~2月1日(日)に、大阪大学蛋白質研究所/大阪大学微生物病研究所主催のもと、大阪ホテル阪急エキスポパークにて、第6回シンポジウムが、大阪大学グローバルCOE「オルガネラネットワーク医学創成プログラム」との合同シンポジウムとして開催されました。医科学研究所からは3が参加し、研究成果を発表しました。

今年のシンポジウムのテーマは、「Life Science against Intractable Diseases」でした。



来年は、金沢大学がん進展制御研究所が主催予定です。